

校長室の窓から田んぼが前に見えますが、6月になってすぐ田植えがありました。我が家の車庫のツバメのひなも、飼い猫のミーが巣を何度も狙うという危機を乗り越え何とか巣立ち、親ツバメたちは2度目の巣作りを始めています。季節は少しずつ夏に向かっていきます。

## 子どもたちの安全をどう守る②

### 救命救急と水上安全法講習の校内研修を実施

前回の学校便りでは、子どもたちの安全を防犯の視点から、「いかのおすし」の話や登下校についてのお願いを書かせてもらいました。今回はこれから始まる水泳指導を前に、全職員が行った子どもたちの安全を守る職員研修について紹介したいと思います。

今週の火曜日に5, 6年生が、1年生から4年生は本日プール開きを行い、水泳の学習がスタートしました。水泳シーズンを控え、プール開き前日の月曜日に、午後の授業をカットし、全職員で救命救急とプール事故が起こった場合の対応の仕方について研修しました。湯梨浜消防署の救急救命士の方からお話を聞いた後、低学年、中学年、高学年、級外グループに分かれ、一人ずつ人形を使って救命処置の流れを確認しながら実習を行いました。講習を受けられている保護者の方も多いたとは思いますが、その流れは次のとおりです。

- ① 安全確認を行う。
- ② 意識確認を行う。 「もしもし、大丈夫ですか」 3回だんだん大きな声で
- ③ 助けを呼ぶ。 助けを呼び「119番通報して」「AEDを持って来て」と指示
- ④ 呼吸確認を行う。 10秒間腹部や胸部を見て確認 呼吸なしだと⑤へ
- ⑤ 胸骨圧迫を行う。 30回胸の真ん中を圧迫 100～120回/秒の速さで
- ⑥ 人工呼吸を行う。 2回気道を確保し鼻をつまんで息を吹き込む。「ふ～」 「ふ～」
- ⑦ 胸骨圧迫と人工呼吸を繰り返す。

救急車が来るまでに約8分。胸部圧迫と人工呼吸を20セット行う時間に相当するそうです。実習では5セットに挑戦しましたが、スキルを身につけた援助者が複数いないと大変だと実感しました。

次は、日本赤十字の方を講師に、実際プールに入って講習を受けました。若い先生にプールに沈んでもらいながら、見にくい場所を確認しプール監視をする際の注意点について学びました。また、プール事故にあった児童を発見した場合、水の中での運び方やプールサイドへの上げ方についても学びました。

命にかかわる事故も起こりうるプールでの学習です。子どもたちには、プールで学習する際の約束を守り、限られた期間にはなりますが、しっかり学んで泳力をつけてほしいと思います。私たち教職員は、子どもたちが安全で、そして楽しく水泳が学べるよう指導をしていきたいと思っています。

